

# 合戦を読む

～後北条氏を中心に～

鉢形城址



忍びの旗挿絵（鉢形城址）

秋の夜長に読書する方も多いと思います。そこで、鉢形城歴史館 平成23年秋季企画展は「合戦を読む」と題し、軍記物を中心に35点の書物を展示します。

鉢形城にまつわる言い伝えがどのように伝わってきたのかを示す、さまざまな軍記物を展示します。後北条氏を中心に資料を展示しますが、武田氏の甲陽軍鑑や上杉氏の北越軍談などの、他の戦国大名にかかわる軍記物も展示します。

また、鉢形城が登場する歴史小説は数多くありますが、特に池波正太郎の「忍びの旗」は、鉢形城が主な舞台となっています。池波正太郎真田太平記館のご厚意により、新聞に連載されていたときの挿絵を出品していただきました。

このように、いままでの企画展示と趣向を変え、より親しみやすい展示会になるよう企画しました。ぜひ、ご来館ください。

## 軍記物

主に江戸時代に記された書物で、戦国大名や近世大名の武勲・武功を書きとどめたものです。

武蔵国児玉郡出身の塙保己一がまとめた「群書類従」に数多く収録されており、有力大名の家伝的な要素が強いと言われています。つまり、脚色や執筆側に都合よく書かれていることがあります。

そのため、いわゆる古文書等と違って、史料的な価値は低いとも言われますが、一般的に知られている歴史の大本になっている面も否定できません。

## 展示資料について

軍記物は、先のとおり群書類従に収録されているものが多くあり、印刷され出版されたものを図書館等で閲覧することが可能です。

今回の企画展では、江戸時代から明治時代ごろまでに木版で出版されたものや写しとなっているもので、伝統的な方法で製本された和装本を展示します。

国立公文書館から借用した文書のうち「北条記」「管窺武鑑」「上州治乱記」は昌平坂学問所が所蔵していたものです。昌平坂学問所とは江戸幕府直轄の教育機関で、現在の東京大学の前身とも言われています。

また、埼玉県立文書館から借用した文書は、もともと個人所有の文書で、館に寄贈されたものです。

その他に歴史小説の展示も行います。さいたま文学館からは、井伏鱒二が「武州鉢形城」を雑誌「新潮」に発表していましたが、その連載初回号などを展示します。

鉢形城本曲輪には、田山花袋の詩碑が建っています。

五言絶句の漢詩で、

襟帯山河好 雄視関八州  
古城跡空在 一水尚東流

と石碑に刻まれています。

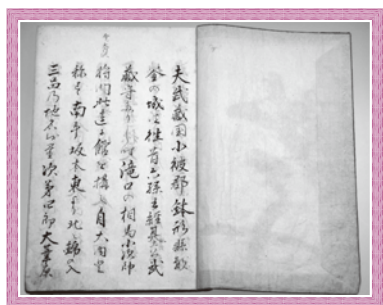
花袋は、紀行文作家でもあり、今でいえば旅行レポーターのような仕事です。花袋が自分の子どもを連れて、大正七年に寄居を訪れ、鉢形城に立ち寄り、先の詩を詠みました。その情景を書き残した「秩父の山裾」が収録されている「山水処々」の初版本も展示します。この詩は、花袋のお気に入り、直筆で色紙に書いたものが残っており、所有者のご厚意により今回展示することとなりましたので、ぜひご覧ください。

## 展示資料の紹介

今回の企画展で展示する資料の一部をご紹介します。

### 鉢形城之由来並古城之跡

正龍寺四世天叟長得和尚と五世繁室良栄和尚との茶話に端を発し、「この記を偏し、後世に遺さん」と寅碩侍者に命じ、慶長五年（一六〇〇）に書き残したもので、さまざまな鉢形城にまつわる伝承の多くは、この記録を基にしているものと思われます。



### 北条五代記

小田原北条氏五代にわたる逸話集で、旧臣三浦浄心の「慶長見聞集」などを参考にしたもので、内容に誤りも多いと指摘されています。



開催期間／10月8日(土)～11月23日(水・祝日)  
※休館日10月11日(火)、17日(月)、24日(月)、31日(月)、11月4日(金)、7日(月)、14日(月)、21日(月)  
開館時間／午前9時30分～午後4時30分 ※入館は午後4時まで  
入館料／大人200円、高校生・大学生100円  
中学生以下・70歳以上・障害者手帳をお持ちの方は無料  
問い合わせ／鉢形城歴史館 ☎586・0315 へ。